



学びと誇りが実感できるまち

～自らの考えを深める読書活動を！～

平成30年6月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

夏の蝶日かげ日なたと飛びにけり (高浜虚子)

先月、国際ソロプチミスト庄原の皆様方から子供たちの読書活動推進のために、多額のご寄付をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

子供たちは、読書を通して新しい世界を体験し、絵や言葉、作品の中から想像する翼を広げ、心豊かになっていくことはもちろんのこと、感性を磨き、考える力、表現する力、創造する力など、人生において欠くことのできない力を育むことができます。

さて、今回はこの読書活動のことです。

「庄原の子供は、いつも今読んでいる本が鞆に入っています」を合言葉に、学校、家庭、地域が力を合わせ一緒になって読書活動を推進してきています。

次の表は、読書活動状況の一部を調査した結果です。

1週間:家庭で読書する時間について

(%)

学 年		読まない	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
小学校 第5学年	庄原市	7.7	40.5	21.2	10.8	6.7	13.1
	広島県	19.2	37.7	21.7	9.5	4.6	7.3
中学校 第2学年	庄原市	32.1	38.3	12.8	8.0	3.3	5.5
	広島県	36.7	33.0	15.3	7.2	2.9	4.9

(平成29年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査結果から)

過去の調査結果と比べると、これまで取り組んできた、例えば「読書タイムの設定」「読書ボランティア団体による読み聞かせ」「学校司書による読書推進活動」「ビブリオバトルやブックトーク、読書祭りなどの取り組み」「子供司書養成講座」などによって、子供の読書意欲が向上し、読書時間が増えてきており、年々少しずつ効果が出てきている数値となっています。

今後も「本から学び自らの考えを深める」ことができる読書をめざし、さらに子供たちが本を読む環境づくりに力を入れてまいります。私たち大人の基本姿勢も忘れてはなりません。その大人の基本姿勢とは、少しの時間でも日頃から本を読み、本から学ぶ喜びを感じながら子供に接することを心掛けていくことです。できれば親や教師、そして子供の周りにいる大人が、子供たちに薦めたい本を紹介する機会をつくり、一緒に本の世界に入り込んでいく空間ができることを期待しています。